

平成19年 8月8日

平成19年5月卵稚仔調査結果速報

鹿児島県水産技術開発センター

独立行政法人 水産総合研究センターの委託事業である資源評価調査事業において下記のとおり卵稚仔調査を行ったので、結果をお知らせします。

1 調査日

平成19年5月7～11日

2 調査船

くろしお(260トン)

3 調査方法

図の25定点において改良型ノルパックネットにより卵・稚仔魚等を採取し、分布域、数量等を調査した。数量比較は、県西部および薩南・県東部海域における1定点あたりの平均採取等を過去の数値、5ヶ年の平均値と比較した。

4 調査結果

【カタクチイワシ】

県西部海域

・卵の分布状況

宇治群島東側でかなり高い密度の分布が見られ、1定点あたりの平均採取数は前年・平年を上回った。

・稚仔魚の分布状況

東シナ海大陸棚付近でかなり高い密度の分布が見られたが、1定点あたりの平均採取数は前年を上回り平年を下回った。

薩南・県東部海域

・卵の分布状況

竹島北部、枕崎沖でかなり高い密度の分布が見られ、1定点あたりの平均採取数は前年

・平年を上回った。

・稚仔魚の分布状況

坊沖、枕崎沖、種子島南東沖でかなり高い密度の分布が見られ、1定点あたりの平均採取数は前年・平年を上回った。

【その他のイワシ類】

平成9年以降では、これまで5月にマイワシの卵・稚仔魚の採取はなかったが、竹島北部で卵が1個、種子島南東沖で仔魚が1尾採取された。ウルメイワシは県西部海域では稚仔魚の採取はなかったが、卵が2個、7年ぶりに阿久根沖で採取された。薩南・大隅東部海域では、卵が種子島南東沖で4個、計8個採取され、平成9年に次いで多い量となった。また、仔魚が8年ぶりに種子島南東沖で2尾採取された。